

【質問内容】

1. オープンデータの利活用について
2. スポーツと地方創生について

4番作野幸憲議員、質問席へ移動願います。

〔4番 作野幸憲君 質問席〕

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員の質問時間は50分間、午後2時42分までです。なお、一般質問に際しまして作野議員からパネル等の使用の申し入れがありましたので、これを許可いたします。

4番作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 議席番号4番作野幸憲でございます。

まず、質問に先立ちまして4月に起こりました熊本地震で亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表したいと思っております。被災された皆様方に心よりお見舞いを申し上げたいと思っております。一日も早い復旧、復興を祈ってやみません。

それでは、早速一般質問をさせていただきます。ゆっくりとわかりやすい質問にしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

さて、今回私が質問させていただくのは、「オープンデータの利活用について」と「スポーツと地方創生について」の2つでございます。よろしく願いいたします。

最初に、「オープンデータの利活用について」質問をさせていただきます。また作野が、横文字のわけのわからない言葉を持ち出してきたなと思っておられる方も多いかと思います。まず、「オープンデータ」とはどのようなものか。

「オープンデータ」とは、インターネットなどを通じて誰でも自由に入手でき、利用再配布できるデータの総称で、普通政府、自治体、研究機関、企業などが公開する統計資料、文献資料、科学的研究資料を指し、イラストや動画なども含まれております。また、活用の目的としては、公的機関が保有するデータを民間が編集、加工しやすい形でインターネットで公開し、多様な公共データと民間が保有するデータを組み合わせることによって、さまざまなサービスやビジネスの創出ができるものであります。

そして、あまり知られてはおりませんが、この利活用の契機になったのが東日本大震災でございます。大震災が発生したとき、救援に向かいたいが道路状況が把握できず、多くの方が困られました。発生の翌日、大手自動車メーカーが、自社の会員車両の走行軌跡データを緊急時ということでオープンデータ化した形で公開をしました。このことにより、北上川にかかる橋が通行可能ということがわかり、自衛隊の人たちや被災地にすぐ行かないといけない人たちはこのルートを使い、陸前高田市に入れたということでございます。それ以来、国も本格的にオープンデータの利活用を進めてきています。国のデータカタログサイト、「data.go.jp」を見ますと、国交省や経産省をはじめほとんどの省庁がさまざまなデータを公開しており、その数

は現在1万6,000件を超えています。当然、個人情報に関するものや機密情報は含まれてはおりません。また、昨年12月には、政府関係のホームページはオープンデータ化され、出典を表示すれば加工することも可能になっています。

自治体でもオープンデータの利活用は進んできていて、なかでも福井県鯖江市や福島県会津若松市、北海道室蘭市などが先進的な取り組みをしておられ、データを提供している自治体も200を超えてきていると聞いております。とは言っても、具体的なイメージが皆さんわからないと思いますので、パネルを使って「福島県会津若松市の消火栓マップ」の事例を紹介したいと思います。

この会津若松市のオープンデータの活用事例は、雪国ならではの取り組みだと思います。パネルやお手元の資料をごらんください。

これは、ホームページ上の画面で会津若松市の中心部の一部を表示したものです。赤が消火栓、青が防火水槽を表しております。

会津若松市では、冬になると雪がかなり積もり、消火栓が埋まり、位置がわからなくなるそうです。そこで、消火栓と防火水槽の位置の住所の入った一覧のデータを使い、このように地図上に埋め込みます。これが見ていただいている状態です。しかし、それでも消火栓の位置をその地番で探すのは大変なので、このようなICチップを消火栓に1つずつつけ、消火栓の詳しい場所を特定し、火災などや点検に迅速に対応できるようにしておられるそうです。当然、スマホからも見ることができます。この事例は、オープンデータ化された市のデータと地図、そしてICチップをうまく使った事例となります。このように、ホームページを使って複数のデータを可視化することによって作業効率も非常に上がります。

全国自治体では、公共施設の場所はもちろん、避難場所の一覧やAEDやW i f i の設置場所、防災関係やバスの運行状況なども使われております。変わったものでは、税金の使い道を直感的に把握するツール「税金はどこへ行った？」などさまざまな新しいサービスが展開され、また新ビジネスも次々に開発されています。

民間と連携したものでよく見るものは、気象会社が出す気象情報があります。これは、気象庁が持つオープンデータ化したデータをもとに、民間の気象情報提供会社がSNSなどからデータを集め、非常に小さな範囲までの気象情報などを提供している事例です。当然、農業から福祉、教育分野まで全ての分野での利活用も可能です。

このように、今後オープンデータの利活用は飛躍的に進みますでしょうし、企業などが持つビッグデータの活用にも拍車がかかってくると思われます。

自治体のオープンデータの作成、公開、利活用は、さまざまな政策での作業効率はもちろん、新しい行政サービスも考えられますし、私は安来市を大きく変える可能性もあると思っております。

そこで質問をいたします。

安来市も内閣府などより講師を招き、ことし3月オープンデータのワークショップを開催されておられますが、開催されるまでの経緯はどういうことだったのでしょうか。お答えをお願いします。

いたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 横田政策推進部長。

▼○政策推進部長（横田一道君）▽ 政府は、2012年に国家戦略として「電子行政オープンデータ戦略」を公表しております。その後、2016年に決定された地方創生 I T 利活用特進プランと歩調を合わせ、内閣官房 I T 総合戦略室により地方公共団体のオープンデータの取り組みと推進が行われ、その一環として平成27年10月に市長が政府 C I O の訪問を受け、オープンデータの推進についての意見交換を行っております。11月には、I T 総合戦略室と総務省から来市の上、12月にパイロット事業への参画を決定したものでございます。それで、本年の3月にワークショップを開催したところでございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ このワークショップにどういう部署のほうから何人ぐらい参加されましたでしょうか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 横田部長。

▼○政策推進部長（横田一道君）▽ 参加者は総勢23人で、市からは内閣府官房から例示があったオープンデータ化する情報を所管する総務課、危機管理課、いきいき健康課、商工観光課、選挙管理委員会、市民参画課、消防本部などが参加しております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 多くの部署が参加しておられますが、参加された方の感想はいかがだったのでしょうか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 横田部長。

▼○政策推進部長（横田一道君）▽ 今回、パイロット事業に準備されたシステムについてはオープンデータを格納し表示する「カタログサイト」といわれるものの他に、例えば人口分布とか特許用施設の分布等を地図に重ね合わせて表示する機能があり、誰でも直感的にわかりやすいという意見が多く聞かれたところでございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ なかなか好評だったようですね。

それでは、国のオープンデータの利活用についての方針と取り組み状況はどのように進んできていますでしょうか。お願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 横田部長。

▼○政策推進部長（横田一道君）▽ 政府は2015年度末には、先進国と同水準の公開内容を実現することを目標に2013年12月にデータカタログサイト、「data.jp」の試行版を公開し、2014年10月より本格運用を開始しております。

現在は、各省庁において掲載データを増やす取り組みをしているところでございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 島根県の取り組み状況はどのようになっていますでしょうか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 横田部長。

▼○政策推進部長（横田一道君）▽ 島根県に確認したところ、県では2014年度、2015年度にオープンデータ化に関する調査研究を行っており、現在データの公開に向けた検討を進めている状況と伺っておるところでございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 先ほども私が述べましたように、現在の状況を見ておりますと地域課題の解決や新しいサービスの創出に結びつくとは考えますし、地方創生にも大いに活用できると考えますが、今後安来市はオープンデータの作成、公開、検討、利活用など積極的に推進していかれるのでしょうか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 横田部長。

▼○政策推進部長（横田一道君）▽ 多くの自治体では、ホームページを活用し情報の公開に努めているところですが、しかしながら、当市を初め多くの自治体ではオープンデータ形式での情報提供の具体的な取り組みには至っていない状況でございます。情報のオープンデータ化につきましては、市民参加の推進を図る上で情報の充実という点において積極的に推進をしてみたいというふうに考えております。

以上です。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 答弁を聞きますと、積極的に推進するというところでございました。

ことし、4月20日に内閣府のホームページに掲載された「第12回電子行政オープンデータ実務者会議」の報告書の新たなオープンデータの展開に向けての進捗状況、その中の「地方公共団体の取り組み」を読みますと、実はこのペーパーになるんですが、昨年から今年にかけての安来市の取り組みが大きく取り上げられております。パイロット事業ということで試験的な取り組みだったということもあるかもしれませんが、先ほど積極的に取り組むということでございますので、私は本当に地方創生、これからの人口減少対策それから人件費の抑制とか作業効率、そういうものを非常にクリアできるものだと思っておりますので、ぜひとも推進のほどよろしく願いいたします。

具体的にこれから推進していくということになりますと、どういう分野のサービスなどから利活用を考えておられるのか。お考えがあればお答えをお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 横田部長。

▼○政策推進部長（横田一道君）▽ 利活用につきましては、例えばオープンデータ化した市の各種情報を用い、地域課題を明らかにし、まちづくりのアイデアをここで出し合う「アイデアソン」といわれるような活動や、システム開発者を集め、市のオープンデータから得た気づきをもとに自治体が持つ各種の課題を解決するための事業やソフトウェア開発等につながる「ハッカソン」という活動など実施することで、産業や観光の振興、防災や住みよいまちづくりに結びつけたいというふうに考えております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 積極的に取り組んでいるということで、安来市も将来に向けて本当に変わる可能性が非常にある取り組みだと思っておりますので、市長さん、うなずいておられますが何か。これは、内閣府の先ほどの資料を読みますと、首長さんのリーダーシップのもとに今回こういう取り組みが行われたというふうにも記載してございますので、やっぱり市長さんがやってみようという心意気を出されたということだと思っておりますので、そこの辺の心意気をお聞かせいただければありがたいと思います。

▼○議長（田中武夫君）▽ 近藤市長。

▼○市長（近藤宏樹君）▽ たしか、3カ月前ですか、内閣府から来られてそういう是非ともパイロット事業そして安来市も変わってほしい、先進的な自治体になってほしいということで直接来られまして、やりましょうということを私もこれから安来市もこういう面で他市を引っ張っていけたらなというふうに思っているところでございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 島根県では一番最初でございますので、奥出雲町もこの取り組みをされるということですが、ぜひとも頑張ってくださいと思います。

次に、2つ目の項目「スポーツと地方創生について」の質問に移りたいと思います。

4年前の6月議会の私の一般質問でもスポーツ全般について質問をさせていただきました。私は、オリンピックやサッカーワールドカップも最終予選が近づいてくると、なぜかわくわくしてスポーツの質問がしたくなってくる性分なのかなと思っておりますが、私はそれはスポーツが持つ言いあらわすことのできない力、魅力があるからだと思います。具体的には、「感動だったり、夢の実現であったり、絆であったり、友情、未来、日本の再生・復興、幸せだったりするのかな」と思っております。また、最近市外の方と話をする中で、安来市はバレーボールやフェンシング、ソフトテニスが盛んであるということから「スポーツの街」というイメージを持っておられる方が多いということに改めて気づかされました。その方々からも安来市はもっともっとスポーツをPRし、地域活性化や地方創生に生かすべきという意見もいただきました。私自身もマラソンやソフトボールを今でも競技として楽しんでますし、スポーツをこよなく愛しております。ですから、スポーツが地域にもたらすものは、非常に大きいとも考えております。

そこで、私は平成26年9月に策定された「安来市スポーツ推進計画」を読み直してみました。計画自体は、今後の課題や具体的な施策の展開まで示しており、良くできているものだと思います。しかしながら、その施策を現在どのように進めておられるかはよくわかりません。特に、「安来市スポーツ推進計画」の中の「安来市の地域特性を生かしたスポーツの推進」が地域活性化や地方創生に役立つ部分なのかなとも思っております。

そこで質問をいたします。

この部分に掲げてある4つの具体的な取り組み、1つは「ウォーキングコース、サイクリングコース、登山道等のPR」、2つ目は「安来市の特色あるスポーツ種目の普及」、3つ目は

「道路等を利用したスポーツ体力づくり環境の整備」、4つ目は「市内宿泊施設の合宿プランのPR」、これらについてどの程度進展しているのかお答えをお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 辻谷市民生活部次長。

▼○市民生活部次長（辻谷洋子君）▽ ご質問にありました4つの具体的な取り組みの進捗状況についてそれぞれ答弁させていただきます。

まず、1つ目の「ウォーキングコース、サイクリングコース、登山道等のPRについて」でございませう。

サイクリングコースにつきましては、安来市観光協会におきまして安来市外コース、足立美術館と月山富田城跡コース、安来清水寺と能義神社コースの3つのモデルコースを設定いたしました。また、コースの発着点となる観光交流プラザに貸出用の自転車を置きレンタサイクルを行うとともにコースを紹介した安来サイクリングロードマップを策定いたしました。さらに、島根県、鳥取県、中海周辺市で構成する「中海会議」の部会の一つであります「中海の活用に関するワーキンググループ」では、中海周遊サイクリングコースを設定し、コースの目印として統一された路面標示を表示するとともに、「中海周辺サイクリングコースマップ」を策定いたしました。また、これらのサイクリングコースとマップのPRのために、昨年広報紙「どげなかね」でも6月号におきまして6ページにわたり特集記事を掲載いたしております。

ウォーキングコースや登山道のPRにつきましては、一部の交流センター、健康推進会議等におきましてそれぞれ地域の史跡や地形等を生かし特色あるコースを設定しております。主なところでは、月山富田城、比婆山久米神社、清水寺古道等において特色ある大会を実施され、新聞折り込みやホームページ等を活用し大会開催をPRしております。

2点目の「安来市の特色あるスポーツ種目フェンシングの普及」につきましては、現在広瀬町フェンシング協会が主体となりまして、安来市広瀬町内の4つの小学校と第一中学校以外の4つの中学校におきまして児童・生徒を対象にフェンシング競技の重点指導を実施しております。また、安来高校におきまして新1年生全員を対象にフェンシング競技への体験指導を実施されておまして、これらの取り組みによりフェンシング競技への理解を深めていただいております。

3つ目の「道路等を利用したスポーツ体力づくり環境の整備」につきましては、平成25年9月にウォーキングコースとして県道、市道を活用し、距離表示を行うためのマニュアルを作成し、市内各地区の交流センター、体育協会、健康推進会議等へ配付し、平成26年3月には安来市ホームページに掲載しております。

4つ目の「宿泊施設の合宿プランのPR」につきましては、スポーツ団体、サークル等を中心に利用していただいております。各施設の平成27年度の実績でございますが、富田山荘プランにつきましては野球、バスケット、テニス等の目的で島根大学、神戸科学高校、浜田第一中学校など16団体、上の台緑の村プランにつきましては野球、ダンス等の目的で岡山大学、広島市立大学、情報科学高校など12の団体に利用をいただいております。

以上でございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ PRはしていただいているものもありますが、ウォーキングコースの整備などは私も何度も提案をしておりますが、なかなか進んだということは聞きませんので、PRもしていただきながら実際に整備をしていただくことももう少し積極的に対応をしていただきたいと思います。これについても、やっぱり市がある程度主導権をとって地域にお願いするとか、そういう姿勢をもう少し見せていただきたいと思います。私は思っております。

先ほど答弁いただいた宿泊施設の合宿プランの部分について、少し踏み込んで質問をさせていただきます。

先ほどの答弁を聞きますと、野球、バスケット、テニスでの利用が多いようですが、私はスポーツで市外から人を呼び込む手段の一つとしては、バレーボールやフェンシングなどの合宿プランの推進ももっともっと必要になってくると思いますが、それについてのお考えはいかがでしょうか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 宮田次長。

▼○政策推進部次長（宮田 玲君）▽ 現在の宿泊プランにつきましては、特定のスポーツ、団体、サークルに限らず富田山荘と上の台緑の村を対象施設として合宿プランのリーフレットを作成するとともに安来市観光協会のホームページで掲載をしPRをしております。今後引き続き幅広い方に利用をしていただくためのPRに努めていきたいと考えております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ また、それに対応できる体育施設の整備はどのように考えておられますでしょうか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 辻谷次長。

▼○市民生活部次長（辻谷洋子君）▽ スポーツ関係の合宿に対応できる体育施設の整備につきましては、今後耐震改修工事等にあわせまして競技施設部分の改修等検討してまいりたいと考えております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ ちょっと話は変わりますが、先月島根県教育委員会が「しまね留学」のホームページを立ち上げました。「しまね留学」とは、皆さんご存じのように島根県外に住んでいる意欲ある中学生が島根県の高校を受験し、入学し、島根県で充実した高校3年間を送ることです。

現在、島根県では19の県立高校で全国から意欲ある留学生、島根留学生を募集しております。全国から島根県へ学びに来る生徒の数はこの6年で約3倍、平成27年には151人と右肩上がりが増えております。安来市では、情報科学高校と安来高校が対象になっていて、情報科学高校は実学を学べ多様な資格を取得できる高校として、安来高校は進学校として、そして部活が一生懸命できる学校として対象になっております。

平成27年度には、安来高校には3人、情報科学高校には2人のしまね留学生の実績がありま

す。安来市も当初予算で「県立高校への支援事業」として広瀬町の専門学校の学生寮の活用を打ち出され、部屋代は徴収せず光熱費のみの負担で支援をされ始めました。

そこで質問をいたします。

この「しまね留学」について学生寮の利用状況も含め今後どのような支援を考えておられますでしょうか。お答えをお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 横田部長。

▼○政策推進部長（横田一道君）▽ 昨年市内各会の代表者を構成する安来高校、情報科学高校支援の会を結成し、市長が会長となり両校への支援について協議を進めてきておるところでございます。

支援の一つとして、勉強机や家具、エアコン、W i f i 環境などを整備した学生寮を今年度から安来高校と情報高校に無償で提供しております。

現在、安来高校に2人、情報高校に1人の学生が入寮をしております。地域の貴重な財産である両校を盛り上げるため、安来市としてできる範囲内で今後も引き続き支援について協議を重ねてまいりたいと思います。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 学生寮については支援を始められたばかりでございますので、まだまだ利用が少ないようですが、今後のもっとPRをしていただけて利用いただけるよう頑張っていたきたいと思います。

それと、スポーツの部活をする生徒さんにとってみれば、広瀬町はちょっと遠いという気もいたしますので、近いところの空き家などの利用も含め支援を検討していただければと思います。

それでは次に、「全国大会等出場激励金制度について」質問をいたします。

ことしの正月、箱根駅伝で安来市出身の大学生さんが走っておられるのがテレビで大写しになり、私はとても感動をいたしました。これに限らず、最近さまざまなスポーツで地元の方の活躍が見られます。全国レベルのこのような大会に出場するためには、並大抵の努力ではなく保護者の負担も相当なものがあります。安来市では、安来市在住及び出身者に対してスポ少全国大会、国体、日本選手権、国際大会、障がい者スポーツの全国大会に激励金を現在交付しております。しかしながら、この激励金を活用しておられるのは、そうは多くございません。私は、交付の対象が少な過ぎると思いますが、今後拡充をしていくお考えはないのかお答えをお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 辻谷次長。

▼○市民生活部次長（辻谷洋子君）▽ ご質問の激励金制度は、議員がおっしゃいますとおり県の予選大会等を勝ち抜き、国体や日本選手権等の全国大会出場を交付の対象としております。この制度につきましては、平成25年度に見直しを行いまして先ほど申しました交付基準に世界大会及び全国障がい者スポーツ大会等の出場を加え、制度を拡充したところでございます。さらなる制度の拡充につきましては、現行の交付基準に該当しない全国大会の出場状況等



について調査した上で変更してまいりたいというふうに考えております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 次に、4月に発生した熊本地震でも多くの方が避難所として利用しておられた体育館にも大きな被害があり、避難所としての役割が十分に果たせなかったことがわかりました。安来市のスポーツ施設も老朽化率が70%ということでもあります。

そこで質問をしたいと思います。

スポーツ施設の老朽化対策や市民体育館など避難所として利用されるスポーツ施設の耐震化対策はどのようになっておりますでしょうかお答えをお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 辻谷次長。

▼○市民生活部次長（辻谷洋子君）▽ スポーツ施設の老朽化対策につきましては、施設の損傷状況、利用状況等を考慮し、年次的に修繕を進めてまいります。

また、公園体育施設及び社会体育施設の体育館の耐震診断は既に終えております。耐震補強が必要な施設につきましては、今後計画的に耐震改修工事を実施する予定でございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ ここまでいろいろと質問させていただきましたが、私は安来市は先ほども申し上げましたとおり、「スポーツの街」としてもう少しPRをし、政策の柱の一つとして強く打ち出していくべきだと考えております。総合計画には、スポーツについての政策が載っていますが、総合戦略には少ししか出てきていないと思います。言い方を変えれば、載ってはいるがインパクトが全くないというふうに私は感じ取れます。安来市には、歴史と特徴のあるスポーツがありますので、これを利用した定住、地方創生をもっともっと目指すべきだと考えますがいかがでしょうか、お答えをお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 横田次長。

▼○政策推進部長（横田一道君）▽ 総合戦略の基本目標3、「住環境を向上し市民の定住意識を高める」の中で、安心・安全な地域づくりの市民の健康増進支援として中海マラソンの開催を初めスポーツを振興し、市民の健康づくりの促進と交流人口の拡大を図ることと記載しております。

総合戦略の基本目標に産業振興により、若者に魅力ある雇用の場を創出するの中で地域資源を生かした観光振興としてヘルスツーリズムなど健康やスポーツを観光資源として活用することを検討しますと記載しております。中海マラソンあるいは自治会親善野球、市民プールなどのスイミングスクール業務の●現状●ではこれが該当するものと考えております。今後も進めていきたいというふうに考えております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 確かに載っておりますし、とは言っても新しい取り組みということになるとなかなか見えてこないのが現実なのかなというふうにも思っておりますので、また総合戦略等も見直しをされるということでもありますので、もう少し踏み込んだ政策内容を私は打ち出していきたいと思っております。

それから、私は以前から医療費削減や健康増進の意味からも運動とスポーツにもっと本気で取り組んでいただきたいと思います。健康やすぎ21やスポーツ推進計画、とてもいい計画だと思っています。安来市には最上位計画の総合計画から多くの計画がありますが、今までは計画をつくるのがメインになっていて、私にはその後の実践が余り伴っていないように思えてなりません。しかしながら、地方創生では知恵を出して安来の未来を切り開いていかなければ安来の将来は見えません。市長さんは、地方創生の議論の中でこのようなことをよく言っておられました。地方は頑張っているが国がなかなか本気になっていただけない。

最後の質問になりますが、今回国は平成30年度には健康増進に成果があった自治体に対し700億円から800億円といわれる交付金を出すとっております。具体的には、ことしの秋制度が決まるようですが、病気になるおそれが高まるメタボリックシンドロームの該当者の減少率や糖尿病などの病気の重症化を予防する取り組みの実施状況、それに価格が安い後発医薬品、いわゆるジェネリックの使用割合などの指標を定め発生状況に応じて交付金を配付するようでございます。国も本気モードになってきております。そこで、健康増進にもっともっと積極的になるべきではないかと考えますし、健康増進施策も市外から人を呼び込む政策につながるとも私は考えております。市のご見解はいかがでしょうかお答えをお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 原田次長。

▼○健康福祉部次長（原田 誠君）▽ 安来市では、平成27年度に向こう10年間を見据えた「健康やすぎ21」を策定いたしました。これは、健康増進と食育推進をあわせ持ち健康寿命の延伸を目指すものです。健診の受診率向上を初め8つの施策を掲げ、安来市健康推進会議をその推進母体として地区健康推進会議の活動と保健部会、関係団体との連携を図りながら進めてまいります。

現在、中海マラソンを初め、地区健康推進会議単位でのウォーキング大会やゴムバンドを使った●ウエルリクス●教室、ストレッチ体操を中心としたいきいき健康教室など特色ある運動の取り組みが着実に地域に根つき広がっております。まずは、健康やすぎ21計画の周知啓発を行い、そして市民の皆様が健康への関心を今以上に高めていただける方策づくりを庁舎内関連部署及び関係機関の団体とも連携しながら取り組みたいと考えております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 今の答弁を聞かせていただきますと、今までいろいろな健康増進や予防について質問してきましたが、何ら変わった答弁ではなかったと思います。

私は、平成30年度に向けてまたこの健康増進についての交付金も市町村、自治体のやっぱり競走になると思います。ですので、地方創生の総合戦略のときはなかなか時間がなかったですが、安来市が本気で医療費削減とか健康増進に取り組んでいくのであれば、今から早速モードを切りかえて進めていかなければまたこの交付金も思ったような結果は私は得られないと思っております。このことも市長さんが安来をそういう街にしていくということを強く打ち出されれば私はもっと進むと思います。ですので、突然ですが市長さん、思いがあればお聞かせいただきたいと思います。

▼○議長（田中武夫君）▽ 近藤市長。

▼○市長（近藤宏樹君）▽ スポーツを通じた市の健康増進は、決して私は他人事だとは思っておりません。先ほど、次長が申しましたように健康会議あるいは糖尿病対策等これも全国の専門誌に載るぐらい本当にインパクトのある、あるいは大きな運動をしておりますし、決して劣っていると思いませんが、しかしやはり以前は安来高校はバスケットボールとかバレーボールで全国制覇したりあるいは野球で、草野球あるいは甲子園等で活躍する人も多くいたり、またフェンシングでも今オリンピック強化選手が出ております。また、過去にはプロテニスプレーヤーも出ています。以前から見るともうちょっとこういうところで若者が本当にスポーツにぐっと目を向けてくれる、そういうもうちょっと強い安来をつくりたいなと思っておりますし、せっかくいま国がこういう交付金を出してくれるというので、いま一度その交付に向けてもう一回本気出さんといかんというふうに思っているところでございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ ぜひとも今議会でも財政とかいろいろなことが出ておって、「安来市財政は楽観できるような状況では決していない。」ですので、やっぱり歳出をいかに抑えていくかということなどにも積極的に取り組んでいかなければなかなか財政的にも厳しくなっていくというのは見えておりますので、そういう部分で医療費の問題とかは非常に将来にわたっても大きな問題でございますので、積極的にこの時期に私は取り組んでいただきたいと思います。

準備しておりました質問は全て終わりましたが、私は今回はスポーツに関する質問をする中において、安来市のスポーツの課題の一つとして中学校の部活の問題があるなということを改めて感じました。このことは別の機会にもう少し情報を集めて質問したいと思いますが、先月末、地元中学校の教育後援会があり、学校長から今後の生徒数と部活についての説明がありました。現在は、全校で何とか100人を超えておりますが、6年後には70人台まで減ってしまうということでございました。そのことによって今ある少ない部活でさえどうなるかわからない状況だなと私は強く感じました。一方で、安来市内においては小学校のときにサッカーを楽しんでいる子供さんたちが120人以上おられるそうです。その子供さんたちは、中学に行ったらやっぱりサッカーをやりたいなということで、一つの例でございますが、子供たちのスポーツの多様化というかそういうものは現実として増えてきております。私は、今後は中学校の部活のあり方と社会体育のあり方をもう少し市がしっかりと考えていただいて、安来市がもっともっといろいろな種目でスポーツが盛んになるような街になるように努力をしていただきたいと思います。

以上で私の一般質問は終わります。ありがとうございました。

▼○議長（田中武夫君）▽ 以上で4番作野幸憲議員の質問を終わります。